

◆細菌感染症

39 度以上の高熱の場合や発熱が 4 日以上続く場合、より重症になる細菌感染症を考える必要があります。

細菌感染症では、熱が上がってくる時に**強い寒気**がして体がガクガク震えたり、(特に高齢の方は)グッタリして元気がなくなることがあります。

細菌感染の中で最もよくみられるのは、**肺炎**で、通常はひどい咳を伴いますが、初期にはそれほど出ないこともあります。**尿路感染症**もその次によくみられ、通常は頻尿や残尿感を伴いますが、高熱だけのこともあります。

咽頭炎・胆嚢炎・肝膿瘍(肝臓に膿がたまった状態)など、それ以外にも体のいろいろな部位に細菌感染症が起こることがあります。

細菌感染症は急激に悪化することがあるため、診察や緊急検査によって、早期に発熱の原因をつきとめ、早期に治療を開始することが大切です。

◆化膿

医学的に言うと「傷口(創面)が細菌により炎症症状を起こしている状態」が化膿である。**炎症症状**とは外科の教科書の最初の方に書いてあるが、患部の「**腫脹・疼痛・発赤・局所熱感**」を炎症の4徴候と呼び、これらが 4 つ(のどれか)があると「炎症」と診断される。「炎症」はさまざまな原因でおこるが、細菌によってこれらの症状が引き起こさるものを「感染症」と呼ぶ。ここでは皮膚の外傷の治癒について取り上げているが、皮膚や皮下組織に細菌が繁殖し、炎症を起こしていることを指して「傷が化膿している」と呼んでいる。

つまり、細菌が傷口に入ったために、「傷の周囲が腫れあがり(腫脹)」「傷やその周囲に痛みがあり(疼痛)」「傷周辺の皮膚が赤くなり(発赤)」「傷の周囲に触ると熱い(局所熱感)」という症状(のどれか)があれば、これは「傷が化膿している」と判断できる。

またこれらに加え、傷口から膿が出ていたり、膿が溜まっていたりすれば、もう確実に「化膿している」といえる。

◆敗血症

通常感染症は、喉、鼻、^{じんう}気管、腎盂など病原体の感染が生じた一部の臓器に症状が引き起こされます。一方で敗血症は、炎症が全身に広がることで局所的な症状のみではなく、体温の異常な上昇や低下、心拍数の上昇、呼吸数の増加、白血球の異常な増加や減少といった症状が現れます。そして、全身のさまざまな臓器の機能が低下していき、生命を脅かすような低血圧に陥る「敗血症ショック」に進行していくのが特徴です。早急に適切な治療を行わなければ命を落とすケースも少なくありません。

敗血症は軽度の感染症から進行することもあるため、特に乳幼児や高齢の方、持病のある方などで発熱などの症状が長引く場合は、できるだけ早く医療機関を受診することが大切です。